



2022年

9月

中国四国農政局
広島県拠点

『佐伯長ナス』順調に生育 出荷量3割アップ ～次世代への引き継ぎに注力～

『佐伯長ナス』は、広島県廿日市市佐伯地区で、JA佐伯中央傘下の『佐伯長ナス生産者部会』が栽培する長ナスで、ハタから先端までの長さが30センチ以上あり、重量感がありながら果肉や皮は柔らかく良食味です。



鈴なりに実った長ナス

同部会では、毎年必ず土壌診断を行い、その結果を基に、ほ場別に施肥設計を行っています。また、大半の会員は地元酪農家と連携し、堆肥を入れた土づくりに励んでいます。このような準備の後、ビニールトンネル栽培では4月末頃から、露地栽培では5月中旬頃から植え付けが始まります。

「今年は、5月から6月中旬が好天に恵まれたことから、生育は順調です。今年のような春先の少雨であっても、『佐伯長ナス』は米の需給調整の一環として水田で栽培しており、近くの水路から必要な水分を供給することができますので、水不足の心配はありませんでした。」と同部会長の阿部さん。

「今年の出荷は6月上旬頃から始まっており、8月中旬までの出荷量は、昨年より約3割アップしています。4年前から地元大手スーパーとの取引が始まり、市場では取引できないものも扱ってもらえるようになり、商品化率がアップしています。」と同部会事務局の二反田さん。

出荷は11月上旬まで続き、広島市中央卸売市場、JA佐伯中央産直ふれあい市場への出荷のほか、地元の学校給食や地元の手スーパーで販売される総菜にも使われています。



専用の出荷箱

部会長 阿部勝也さんに『佐伯長ナス』の今後について伺いました

ナス農家を増やし生産ロットを大きくし『佐伯長ナス』の知名度を上げたい。そのためには「佐伯長ナス」の魅力アップが必要だと感じています。

現在、①地域住民に、農閑期の収入確保の考え方として半農半Xなどを伝えての部会への勧誘、②地元小学校への長ナス栽培を中心とした食農教育、③6次産業化に向けた商品開発の検討、④ナス料理のレシピ公開などに取り組んでいます。また、生産量増加と品質向上を目指して、技術力に長けた高齢会員から経験が少ない若手会員への技術伝承と会員間の作業の分業化を行ってはどうか、というアイデアも出ています。

これからは、これまでに取り組んできたことを継続しつつ、新しいアイデアを出し実行することが、特産品を守り次世代に引き継いでいくこと原動力になると思います。



部会長 阿部さん



ナスのお好み焼き

『佐伯長ナス』を使った料理

詳細は、こちらをご覧ください。

<JA佐伯中央ホームページ>

<http://www.ja-saikichuo.or.jp/wp/archives/2371>

<http://www.ja-saikichuo.or.jp/wp/archives/2620>



ナスそーめん

INACOME(イナカム)ビジネスコンテスト 課題解決ビジネスプランを募集中！

募集期間：令和4年9月5日(月)～令和4年10月21日(金)

農林水産省では、農林水産物や農林水産業に関わる多様な地域資源を活用し、新事業や付加価値を創出することによって、農山漁村における所得と雇用機会の確保を図る「農山漁村発イノベーション」の推進に取り組んでいます。

令和5年2月、農山漁村に新たなビジネスの創出を促す「INACOME(イナカム)*」において、地域資源を活用したビジネスを対象としたビジネスコンテストを開催します。その開催に向け、以下の4つのテーマに沿った課題解決ビジネスプランを募集しています。

「地域資源」×他分野との連携

「地域資源」×関係人口・担い手対策

「地域活性化」×DX推進

フリーテーマ

*「INACOME」(イナカム)とは、農山漁村における豊富な資源とやる気あふれる人材、そして必要な資金を組み合わせることで、新しい考えや自由な発想を取り入れたビジネスを生み出すことを目的とした、起業促進プラットフォームです。

詳細は、こちらをご覧ください。

<農林水産省ホームページ> <https://inacome.jp/business-contest/>



稲刈りの時期が近づいてきました。

コンバインの点検・整備や作業中での事故に十分注意をしましょう！



後方バック時に転落
→小まめな後方確認、補助者は誘導を！

- (1) 移動・走行中（特に後進時）は、畦畔や路面の凸凹等による転倒・転落に注意しましょう。
- (2) 点検整備・清掃作業は、巻き込まれないよう回転を止めましょう。
- (3) 手こぎ作業は、手袋を装着せず(手袋装着の場合はフィットしたものを使用)、機体の内側に手を入れないようにしましょう。

★まだまだ暑い日が続きます。
熱中症に注意しましょう！

- 高温時の作業は避ける（日中の気温の高い時間帯をはずす）
- 単独作業は避ける（なるべく2人以上で作業する）
- 20分おきに休憩&水分補給をする（コップ1～2杯程度）
- 適宜マスクをはずす（人との距離を少なくとも2mほど確保できる場合）



◎「News Letter」は、原則奇数月に発行しています。

編集：中国四国農政局 広島県拠点

〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30

TEL(082)228-9676(内線306) FAX(082)228-5817 <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>